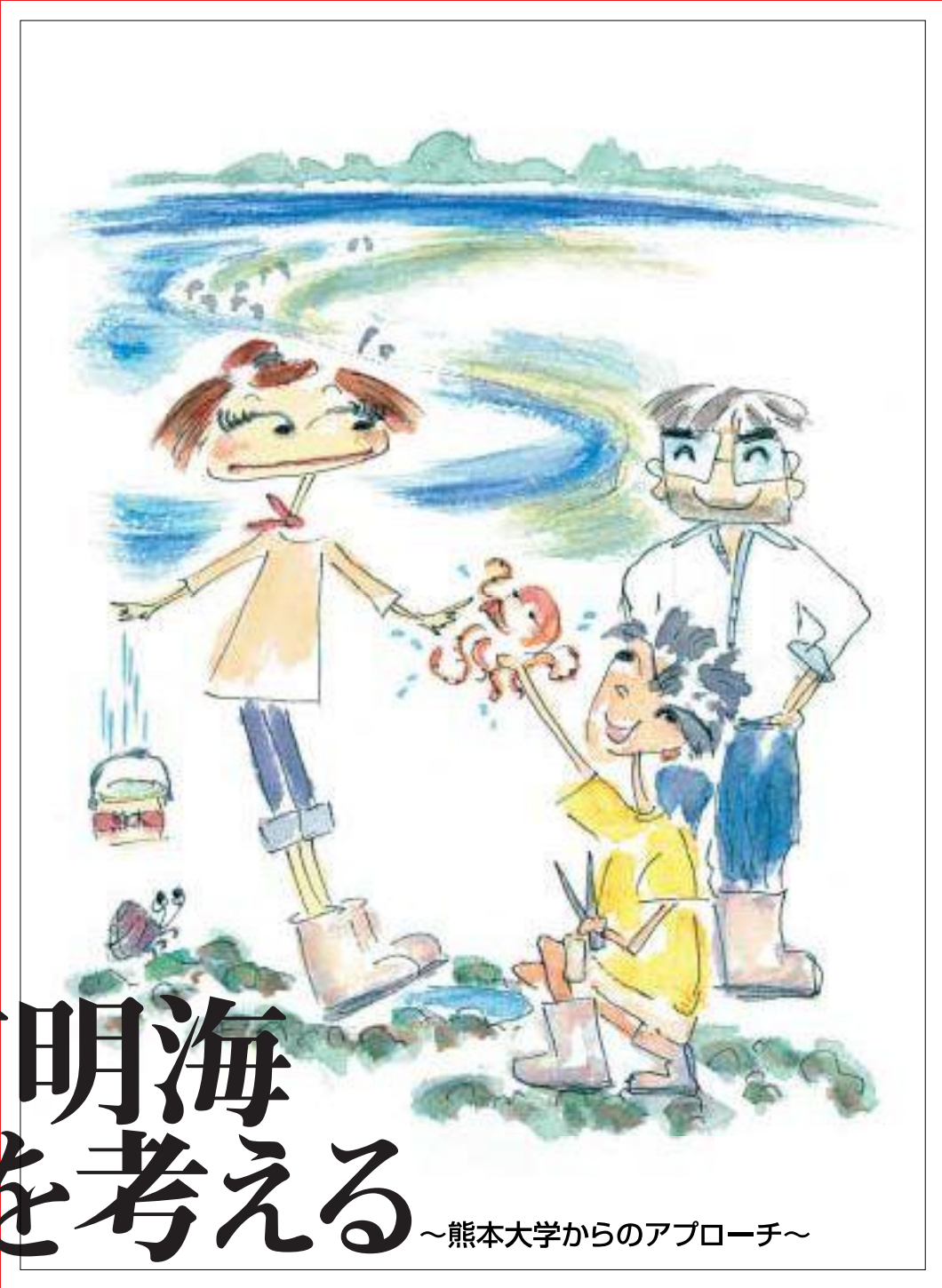


# 熊大通信

KUMADA TSUSHIN  
JL.2002

Vol.5



特集

## 有明海 を考える

～熊本大学からのアプローチ～



# CONTENTS

<目次>

知と社会 Vol.5

# 有明海 を考える



～熊本大学からのアプローチ～

## 熊本大学に聞いてみたい!!

～医療技術短期大学部を訪ねて～  
 熊本県立東陵高等学校／江藤真美さん・宮崎理加さん・山田葉留香さん



P1

## 熊大群像

「マルチメディアで野鳥を守る」  
 熊本大学教授 三田長久



P6

P8

## OB・OG訪問

「ハードだけど頑張れる、やりがいある記者の仕事」  
 熊本日日新聞記者 浪床敬子さん



P10

## 国際交流事情 ～国際総合大学としての熊本大学～

～大学間交流協定で、熊大から海外の大学へ～  
 熊本大学文学部文学科4年・有働幸子さん  
 熊本大学大学院自然科学研究科博士前期課程機械システム専攻2年・高良和則さん

P12

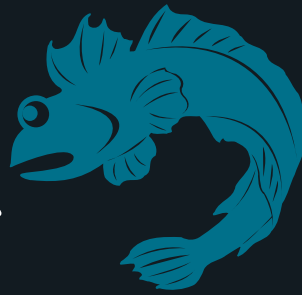
## 熊大 INFORMATION

P14

知と社会

Vol.5

# 有明海



## を考える

～熊本大学からのアプローチ～

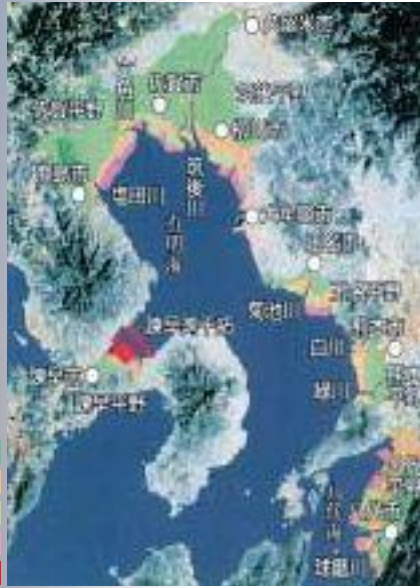
近年、諫早湾干拓や川辺川ダムなど、環境保護、そして費用対効果という観点から、公共事業のあり方に強い疑問の声があがっている。これらの解決に必要なのは、研究者が客観的データを提示すること、それを行政やジャーナリストが人々に広く明確に伝えていくこと、そして政治や市民の意思決定の根底に環境と共生する哲学・思想が流れていることが不可欠である。

有明海の現状や保護の必要性については、すでに各方面から様々なアプローチがなされている。今更と云わず、研究者の話を通して、我々は、ここで有明海にしっかりと目を向けてみたい。

ムツゴロウがこんな身近にいるなんて知らなかった。熊本港付近の干潟にて。

有明海の海岸線は、昔は、波打ち際、いわゆる渚線が幅広く、その渚線を行き来する生き物たちがたくさんいた。鎌倉時代から始まった干潟干拓を手始めに、私たちは自然を人間のために改良してきた。初めは素朴だった採取や改良も、大型の機械を使った破壊的なものへと変わった。昭和から平成にかけて、コンクリート骨材として海砂が多量に採取されるようになった。そして、コンクリートの干拓堤防等が海岸ギリギリにたくさん造られた。今では有明海の7〜8割が人工海岸で、自然のままの海岸は諫早

九州・有明の干拓の歴史



干拓造成年次

- 1767年以前…明和4年以前
- 1768～1867…明和5年から慶応3年
- 1868～1915…明治元年から大正4年
- 1915～1960…大正4年から昭和35年
- 1960～現在…2001年現在施工中

湾のごく一部になってしまい、生き物の生息の場として大事な渚線が激減してしまった。

日本人口の46%が海岸の近くで生活しており、工業の大半が何らかの形で海を利用している。日本の海岸の幅は平均20〜30メートル。その幅は、毎年0.166m位縮み続けており、この計算では200年後には殆どの海岸がなくなってしまう。

環境悪化の犯人は諫早湾干拓か

有明海は、「豊饒の海」や「命のゆりかご」と呼ばれた。多くの生命を育み、惜しみなく分け与えてきた、愛情豊かで懐の深い海であった。

ところがである。平成12年7月には「大量の赤潮発生」、平成13年1月には「ノリの色落ち」が発生した。諫早湾を干拓したからか。いや違う。有明海の環境悪化は、諫早湾干拓の単独犯行ではない。しかし、影響を及ぼさなかったわけではない。「濁りがひどくなった。海藻が減った。魚種が変わった。水温が上がった」等の兆候は、10〜20年前からすでに表れていた。

我々の生活行動や産業活動全般から出されるあ

らゆるものを、最後に引き受けているのが海である。長年、陸から垂れ流し続けた負荷が大きいのは想像に難くない。

陸地からは、コンクリート張りにされた河川や下水の整備により、地下に浸透することなく、そのまま海に栄養分が過多に流されている。特産の有明海苔の養殖も近年急速に拡大している。これは、実は海へ大量の物質が流れ込み、より多くの海苔を成長させる過栄養状態を示すものである。

これまで長年にわたり、有明海の大きな干満差と浅い水深がもたらす浄化能力によって、プランクトンや赤潮の発生、ヘドロ化は防がれていた。

海には固有の能力(環境ポテンシャル)があつて、ある程度の範囲内であれば流れ込んだ物質を浄化することができる。が、ある限度を超えたり、長年月の間に物質が溜まると、浄化しきれなくなり、いろいろな病状が現れる。不摂生を続けた時の、人の体の症状と似たようなものかもしれない。

科学の限界

私たちは、科学の力によって、客観的に環境変化の



生 生の痕跡や被災状況の調査や海象・気象等の資料  
センター)らは、台風襲来直後から、現地での高潮発

最大の高潮災害が発生した。

滝川清教授(熊本大学沿岸域環境科学教育研究

## 防災の視点から見る有明海

1999(平成11)年9月の台風18号は不知火海(八代海)を襲い、熊本県下は、死者16名を含む過去

原因究明や将来の予測が可能だと思っているところがある。しかし、海は、空と水と土地が接し、常に温度や風の流れにより変化し、その中に多様な生物が生息している複雑な世界である。残念ながら、今の私たちの科学力では、有明海で起きている自然現象を全て解明することはできない。その意味で諫早湾のインバクトを含め、今後も継続して研究を続けていかなければ、真の解決は見出せない。

しかし、二つ言えるのは、有明海が人間の行為により確実にダメージを受けていることだ。瀕死の患者を助けるために精一杯の処置を試みる医者のように、私たちも今もついている叡知を結集して、有明海の処方箋を作ることが大事である。



滝川 清教授

農林水産省有明海ノリ不作等対策関係調査検討委員会(ノリ第3者委員会)、同委員会有明海海域環境モニタリング専門部会委員長、同委員会有明海海域環境調査検討委員会  
八代海海域調査委員会(川辺川ダム調査関連)や熊本県高潮対策検討会委員長等、国や県の委員長を多数兼任中

その時の高潮は、これまでの最大水位を2.2メートルも超えるものだった。熊本大学のシミュレーションによれば、伊勢湾台風クラスの規模を想定すれば3メートルを超える計算になる。



原田 浩幸助教授

災害に備えて3メートルを超える堤防を造るべきか。滝川教授は言う。「生起確率の低い自然災害に對して、防災建造物によるハードな対応だけでは限

## 干潟の自然浄化機能の価値

公開と地域住民の合意による“減災”対策への変革が必要である」。

工学部・理学部の研究者を中心に、熊本大学では有明・八代海に関する研究が活発だ。

例えば、原田浩幸助教授(工学部環境システム工学科)。ゴカイ等の底棲動物が巣穴を掘る活動は、



古川 憲治教授

## 費用対効果における考察

諫早湾干拓事業を「費用対効果」という観点で考察してみたい。

得られる効果に対してかかる費用が大きい場合、事業は実施できないことが「土地改良法」で定められている。例えば1億円の費用がかかる事業は、1億円以上の効果がなければ着手しないのが原則である。

諫早湾干拓事業に対して、農林水産省は、2,560億円の事業費に対して2,588億円分の効果があり、費用効果は1.01なので妥当だという立場だ。一方、環境NGOと学者らの研究では、5,160億円の事業費に対し1,559億円分の効果しかなく、費用効果は0.3と算出している。

両者の最大の違いは、干拓によって失われた「干潟の水質浄化機能」を算入するかどうかである。NGO側は諫早干潟3,000haの浄化能力は、処理人口30万人分、建設費約2,600億円、維持管理費年約17億円の下水処理施設に相当するとみなしている。農水省側の評価は「ゼロ」である。

このように、行政による費用対効果においては、通

例、(社会的効果は「効果」の中に算入するもの)「費用」の中には、直接の事業費だけが算入され、「社会的費用」などそれ以外の「絶対的損失(費用)は除外されてきた。諫早の3,000haにおよぶ干潟そのもの、そして干潟や海と共に育まれてきた沿岸住民らの生活史や文化的伝統・遺産、景観、歴史的風土、コミュニティもまた、一度失われたら再生困難な絶対的損失だと考えられる。

「必要性、効率性、有効性、公平性、優先性」が考慮された柔軟な政策を、市民は望んでいるはずだ。

熊本大学が行った意識調査にも、「干潟環境を守るために、一世帯あたり年1,400円〜2,100円程度なら税金を払ってもいい」という調査結果がある。環境に対する住民の関心はすでに高く、納得するような使い方であれば税金も払う、というのが住民の考え方のようだ。

## 「連携」というキーワード

なるほど、費用対効果一つをとっても、理学・工学分野だけでなく、政治、経済、哲学、社会学等、多分野・広範囲における公平で客観的な研究データが必要

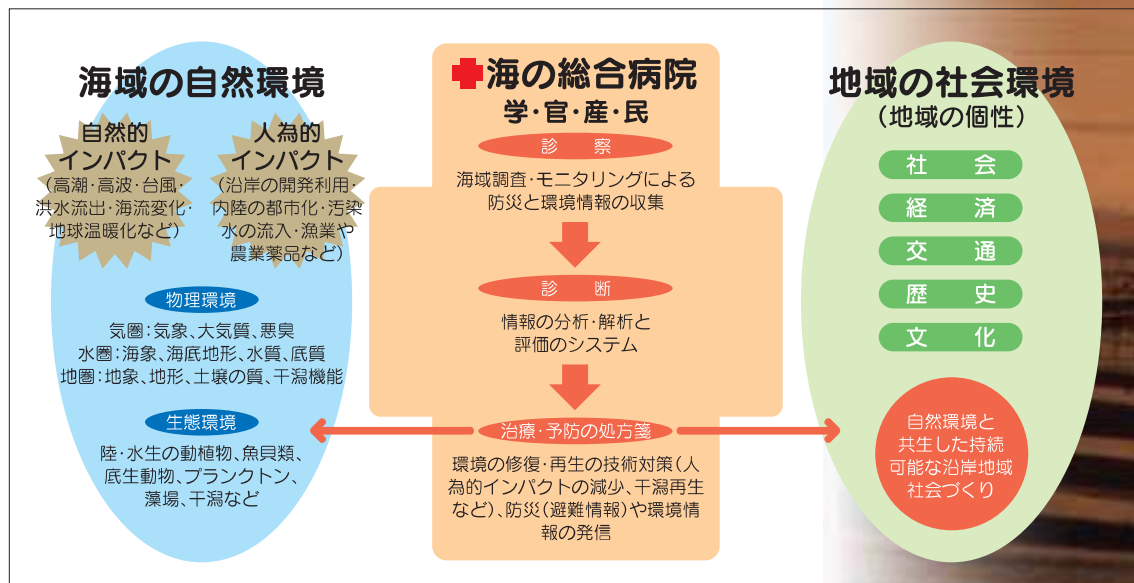
は、バクテリアを使って、人工の浄化槽である下水処理施設の能力を高める研究等を行っている。「力づくで浄化しようとするのではなく、生態系の基本原理に則ったやり方をしなければならぬ。今は干潟の許容キャパシティを超えている。それは人間のエゴだ。干潟への負担を減らす方向で、我々もライフスタイルを妥協できるレベルまで変えていかなければならない」と力を込める。干潟の自然浄化機能は高く評価されているが、その浄化機能を数値的に検討した研究は少ない。緑川、不知火海、白川、菊池川、佐賀の5ヶ所の干潟の浄化能力を調べた結果を現在の下水処理場の能力に換算すると、緑川(116ha)で約11万人分、佐賀地点の干潟(404ha)で約73万人分と同程度の能力を干潟が有すると考えられた。



一人でも多く子どもたちに干潟で遊ぶ機会をつくってあげること、それは遠回りのようだが、有明海を守る一番の近道なのかもしれない。

だとは分かる。個々の研究者は、優れた研究を志すべきである。しかし個々人で立ち向かうことには限界がある。研究も、社会のあり方も「連携」の時代である。研究者同士の連携だけではない。有明・八代海の環境悪化をいち早く懸念して、平成9年に発足したのが「有明・八代海沿岸環境研究会」である。有明・八代海が今、どのような状態にあるのか診断し、これからどのように修復したらよいかを考える。海の総合病院”を目指したもので、熊本大学工学部、理学部を中心とした県内外の大学研究者“学”と、国や熊本県、福岡県、佐賀県等の“官”、それに民間企業の“産”、周辺住民ら“民”、約200名が参加して、フォーラムや干潟フェスタの開催など積極的に活動している。また、阿蘇グリーンストック運動の佐藤誠教授(法学部)らとの連携も図っている滝川教授。この6月には、地域企業と連携したNPO「みらい有明・不知火」が承認された。環境保全、地域安全、子どもの健全育成等の地域貢献を目指したものだ。「立場や権威を守るためではなく、本当にこの海が大切なんだ」という人間宣言が必要だ」と想いは熱い。

## ■海の総合病院構想（滝川デザイン）



有明・八代海沿岸域環境研究会 ▶ <http://www.civil.kumamoto-u.ac.jp/ariake/>

## 環境問題への取り組み

調和のとれた環境と一言で言っても、人間の立場で考えた調和や環境になりがちである。第1に安全・安心に暮らせるといふこと。第2にものを言わない自然に対する配慮。それを損なわない隙間があつて初めて、人間がより暮らしやすいように開発・利用が許されるのだ。

滝川教授は、「何百年も何十年も人間の行為によつてダメージを受けてきた自然を回復させるには、海域全体を一つの大きな生き物としてとらえ、どう元気づかせていくかを考えなければならぬ。そのような視点から、環境を修復しよう」と積極的に進めている。例えば、漁民の方に協力してもらつて干潟を耕すとか、沖のゴミ拾いを行つている。改善するには原因究明も大事だが、それと併行して、今直ぐやれること、そして中期的・長期的にやること、そういったしっかりとしたメニューを作つて、できるところから一つ一つ改善に向けてはじめることが大切である」と主張する。この夏は干潟に出かけよう。きっと新しい発見があるはずだ。そして、この海を守ることは、私たちの生活を守ることだとあらためて気づくことだろう。

# 熊本大学に聞いてみたい!!

## 医療技術短期大学部を訪ねて

かつて、女の子の人気職種だった「看護婦さん」。今では看護師と呼ばれています。医療関係の職業は不況の昨今、人気が高いようです。「聞いてみたいシリーズ」、今回は医療技術のエキスパートを養成する「医技短」こと医療技術短期大学部を高校生3人が訪ねました。

**Q** 宮崎 看護学科、衛生技術学科、診療放射線技術学科では、それぞれどんなことを学ぶのか教えて下さい。

**A** 森田 看護学科ではまず、解剖学、生理学など医学の基礎を学びます。医療情報科学に力を入れているのも熊本大学の特徴です。成人だけでなく、赤ちゃんから高齢者までの幅広い看護を、大学での学習と病院での実習を通して身につけていきます。

**A** 安倍 衛生技術学科は、病気の原因を調べ、対処していくための勉強をします。血液や尿や組織を調べたり、心電図や脳波をとって、各臓器の状態を調べます。

**A** 佛坂 診療放射線技術学科は、放射線技師を養成する学科です。具体的には、X線や磁場、音波などを使った検査をマスターします。放射線を使った治療は、癌などの病気に大きな成果を上げています。

**Q** 江藤 今、私たちが身につけておくべきことは何かありますか？

**A** 安倍 大多数が病院に就職してしまい、企業からの求人には希望者はほとんどいません。

**A** 佛坂 病院や医療機器関係企業などに就職するか進学です。最近では、4年制大学でさらに勉強する人も増えています。

**Q** 宮崎 医療関係をめざす上で、専門学校、短大、4年制大学はどのくらい違うのですか？



**A** 森田 専門学校と短大の場合、卒業時に看護師の国家試験受験資格が与えられます。4年制大学の場合は、看護師の他に、保健師などの国家試験が受けられます。専門学校は現場での即戦力に優れています。一方、学問的な深みや奥行きという点では短大の方が力がつくと思います。ですから、現場に出ても長い目

**A** 森田 看護は、人の気持ちを理解することが大切です。たくさん本を読むことで世界が広がると、患者さんと接していく上でも役に立つと思います。そして看護は頭だけでなく、体力も必要です。体もしっかりと鍛えておいてください。

**A** 安倍 高校の授業でいえば、化学、生物、物理などをしっかり勉強しておいてください。医療機器を使うことも多いので、技術力も必要です。また、患者さんとのコミュニケーションも大切です。人と接することにも慣れておいてください。

**A** 佛坂 理系の基礎知識に加えて、パソコンなどの操作も重要です。検査技術は進歩が著しく、MRIやCTスキャンなど最新の医療機器が導入されています。超音波検査や画像情報システムの管理など、パソコンが欠かせない分野となっています。

**Q** 山田 卒業後の進路について教えてください。

**A** 森田 半数は看護師として病院など医療機関に就職し、残りの半数は助産師や保健師、養護教諭など他の資格を取るために4年制大学等へ進学しています。

人は4年制大学が向いていると思います。

**Q** 山田 医療技術者をめざす人に求められるものは何ですか？

**A** 森田 専門知識はもちろんですが、プラス人間性が求められます。思いやりや優しさといった、人としての態度や性格が大切な要素になります。人の命を預かる仕事ですから、何よりもまず、患者さんに信頼してもらわなければなりません。幅広い知識、確実かつ適切な技術、そして倫理観のある思いやりのある態度。この3つを真剣に学ぶことが出来る人が医療技術短期大学部では求められています。



ドキドキしながら先輩たちに実習を教わる3人



医療技術短期大学部  
 ぶつさか ひろまさ 佛坂 博正 教授  
 (左)診療放射線技術学科  
 もりた としこ 森田 敏子 教授  
 (中)看護学科  
 あべ きいちろう 安倍 紀一郎 教授  
 (右)衛生技術学科



熊本県立東陵高等学校3年生 江藤 真美さん  
 「実習中の様子を実際に見学できたのが、とてもよかったです。先生方のお話をうかがって、思いやりの心が大事なんだなあとお感じしました。これで看護への希望がより強くなりました。頑張ります！」



熊本県立東陵高等学校3年生 宮崎 理加さん  
 「漠然と看護学科を志望していたのですが、今回いろいろなお話をうかがって、他の学科も面白そうだなあと思いました。医療分野への興味が深まりました。ありがとうございます！」



熊本県立東陵高等学校3年生 山田 葉留香さん  
 「いろいろな教室や学科を見学させてもらって、ずいぶん勉強になりました。学生のみならず、目標を持って生き生きと学ぶ様子がとても印象的でした。私も後輩になれるといいなあと思いました！」



# マルチメディアで野鳥を守る

電気システム工学科の三田長久教授は、山歩きや自然観察が大好きなナチュラリスト。専門のマルチメディア技術を使って、渡り鳥のルートの解明など自然保護に役立ててい

ます。「一見、正反対の分野にも思える最先端の通信技術と野鳥の保護ですが、そこには思わぬ結び付きと、技術の応用が生かされています。」



大学近くの立田山を散歩。最近では鳥の声を録音するのがお気に入りだとか。



## 趣味のアウトドアライフと野鳥観察

三田教授と野鳥との出会いは今から15年程前にさかのぼります。「当時は埼玉に住んでいました。休みの度に趣味のサイクリングで狭山湖へ出かけていました。そこできれいなカモをたくさん見かけて、鳥類図鑑を買ってきて調べたのがきっかけでした」。以来、すっかり野鳥の魅力にとりつかれ、日本野鳥の会の会員に。すっかりアウトドアにはまってしまうと言います。

マルチメディア技術と野鳥観察。何だか正反対の分野のような印象を受けますが、「自分の中ではまったく違和感なく、両者が合体している感じです。目で見て、音を聞いて、話をして、肌で感じて、そんな日常的なコミュニケーションが、つまりマルチメディアなんです。戸外で野鳥を観察して、豊かな自然を体感すること、これこそマルチメディアそのものですよ。」

## 企業の研究所から大学へ

三田教授は、平成8年にNTT研究

所から熊本大学工学部へ。ちょうどこの時期、熊本大学工学部でも大幅な組織改革を行い、新たに生まれたマルチメディア研究室の専任教授として迎えられました。

マルチメディア技術を使って、自然環境を評価しようというのが、大学での三田教授の主な研究テーマです。それは、野鳥の観察にも深いつながりがあります。「電波の到来方向がつかめれば、鳥の渡りのルートを追跡するのにも大いに役立ちます」。

電波の到来方向をキャッチする技術は、多方面への応用が可能です。携帯電話やカーナビなど、新たな分野への活用も期待されています。より幅広い分野への導入が、三田教授と学生たちのこれからの課題です。

## 専門のマルチメディアを自然観察に生かす

三田教授が日本野鳥の会の会員として活動していた10年程前、野鳥の会からNTTに技術開発の相談が持ちかけられました。それは渡り鳥のルート



持ちは強かったですね」。

それまで渡り鳥のルートは、その多くが謎に包まれていました。「おおよその行程はつかめていたのですが、細かいところまではわからなかった。繁殖地や越冬地だけでなく、それぞれの休息地まで解明できれば、渡り鳥の保護に大いに役立ちます」。

### 今まで謎だった渡りのルート解明に挑む

機を装着したいというもので、その小型無線機の開発を依頼するものでした。そこで白羽の矢が立ったのが、三田教授でした。「これは自分の仕事だと思いましたが。鳥に装着しても負担のないように無線機をどこまで小型化、軽量化できるか、チャレンジしてみたいという気



オオワシのように大型の鳥だと2人がかり。根室市友知海岸は凍りつくように寒かった。

まず、そのルートを解明するために、鳥に軽くて壊れにくい送信機を取り付ける必要があります。どうやって小型化するか、どうやったら確実に装着できるのか、日夜試行錯誤が続きました。「最初は300gくらいあった機械が、40gになり、最終的には25gにまで軽量化することができました」。出水のマナヅル、ナベヅルに装着テスト

が行われました。送信機はテフロン製のベルトで鳥の背中にリユックのように背負わせます。鳥の飛行にとって、これが最も負担の少ない装着法なのです。ベルトの端は手術用の糸で留めつけます。こうすれば、半年くらいで自然に糸が溶けて、機械が脱落する仕組みになっています。鳥の大きさによって、付け方や機械の大きさも変えます。

このやり方で、かなりの部分まで渡り鳥の飛行ルートを解明することに成功したのです。出水のツルの場合、鹿児島から朝鮮半島に渡って、最初に休息する場所は南北の国境、板門店近くの北緯38度線付近であることがわかりました。「国境地帯というのは人が少ないので、野生の鳥たちにとっては絶好の休息所なんです。出水のツルの繁殖地はさらに北の中国とロシアの国境地帯にあります」。人間の手が入っていない地域こそ、野生の鳥たちにとっては聖域(サンクチュアリ)だったのです。

### 先端技術と自然、人がつなぐ

これまで三田教授が調査した野鳥の種類は、ナベヅル、マナヅル、オオワシ、オオハクチョウ、コハクチョウ、タンチョウ

ズル、ハクガン、マガン……。

小型無線機には特殊なセンサーが付いていて、飛行地域の温度や気圧も測定できます。これまでの調査で、いろいろと興味深い事実が明らかになりました。例えば、オジロワシの場合、行きと帰りのルートが違うことが判明しました。マガンはひたすら直進して海上を二路北へ渡っていくことがわかりました。「20時間で2000キロメートル、平均時速100キロというすごいスピードです。このデータにはみんな驚きましたね」。中には、南極から北極まで、何万キロの距離を渡っていく鳥もいます。

鳥たちは自然の風の流れや気象条件を見事に読み解きながら、山上、海上の遙かな距離を渡っていきます。鳥たちは、まさにマルチメディアを駆使して地球の上を渡って暮らすのです。野生の鳥たちと先端技術。そこには目に見えない共通性がありました。



#### PROFILE

三田 長久教授  
72年京都大学工学部卒業後、日本電信電話公社研究所勤務。平成8年熊本大学工学部電気システム工学科教授。熊本市在住。ウォーキングと野鳥観察が日課。

# ハードだけど頑張れる、 やりがいある記者の仕事

マスコミといえば、文系学生を中心に人気NO1の職種です。中でも、時代の先端を走るジャーナリストはあこがれの仕事。地元新聞社で社会部記者として活躍する浪床さんに、熊大OGとしてのアドバイスを含めてお話をうかがいました。

## 大学で哲学的な 考え方を学ぶ

—熊本大学を選ばれたのは、何か理由があったのですか？

浪床 親戚が熊大に通っていたりと、身近に感じていたという点は大きいですね。家族からも地元の大学への進学を勧められていましたので、熊大を志望しました。

—文学部の中でも哲学科をめざされたのは、なぜですか？

浪床 専攻についてはあまりよく知らなかったというのが正直なところですが、ただ、大学では高校生の時には勉強できなかった新しいことを学んでみたいという気持ちがありました。やったこ



とのないことにチャレンジしてみたい、そんな思いで選びました。哲学というと、何だか小難しいと思われがちですが、実はとても奥の深い学問です。いろんなことを考えていく上での指針というか、考え方やものの見方の基本を教わりました。大学時代に哲学を勉強しておいてよかったなと、今になって思っています。

## マスコミをめざしたのは、 卒業間近の4年生の時

—どんな大学生活でしたか？

浪床 学外のクラブに所属してバスケットボールをずっとやっていました。家庭教師、店員、ガソリンスタンド……いろんなバイトもやりました。大学時代にいろんな仕事を体験しておくのも、いい社会勉強になると思います。

—マスコミを将来の仕事として考えら



## PROFILE

浪床 敬子 (なみとこ・けいこ)  
熊本大学文学部哲学科卒業。平成6年、熊本日日新聞社入社。現在、編集局社会部所属。

れたのは、いつ頃からですか？

浪床 それが、4年生になってからなんです。それまでは、漠然とマスコミもいいなあと思っていただけくらいで…。新聞記者をしていた叔父が、取材中に事故で亡くなったことも、頭の隅にはあったのかもしれない。でも、4年生ではどうしても遅すぎました。最初の年は全敗。それでも、マスコミへの就職があきらめきれなくて、一年間留年して再度、次の年に挑戦し、何とか希望した地元の新聞社に採用になりました。

## 新聞記者として、女性として

—新聞記者はとてハードな仕事だと

うかがっていますが。

浪床 そうですね、夜遅くまで取材ということもありますし、休みも不規則です。女性でも夜勤や泊まり勤務も当然あります。ハードですが、女性も男性も区別なく頑張れるし、とてもやりがいのある仕事だと感じています。現在は我社の女性記者は20人程です。新聞社というと男の職場というイメージが強いようですが、女性だから難しいということはありません。男女の違いは、普段ほとんど感じることはありません。そんな暇もないほど忙しいですから(笑)。—記者になるために必要な資質については、どのようにお考えですか？ 大学時代に、これはやっておいた方がいいよということもあれば。

浪床 これをやっておけば大丈夫ということは言えませんが、大学時代には広い視野を養っておくことが大事だと思います。幸い、学生は時間がたっぷりありますから、いろんな人と会ったり、いろんなところに出掛けて行って話を聞いたりして、経験を積むことは大切ですね。社会人になった時に、そうした蓄積が大いに役立つと思います。それに加えて、マスコミを志望するのであれば、

好奇心と感性はとても重要な要素で

すね。何事にも関心を持つて、好奇心のアンテナを広く張り巡らせておくこと。そして、自分自身の感性を常に磨いておくことです。マスコミの仕事は自分自身が勝負です。自分の内面をしっかりと耕し、豊かにしておくことが、取材現場で大きな力を発揮します。

## 大学が身近にあることが大きなメリットに

—今、社会人として熊本大学をどう活用されていますか？

浪床 私は地元で就職しましたから、出身大学はいつも身近にあるわけです。これは、とても心強いことです。取材で分からないことや、詳しく調べたいなと思う時などは大いに役立ちます。先生方にお話しを聞きに行くのも行きやすいということもあります。私は今、医学部の浴野先生の勉強会に参加しているのですが、水俣病に新たな視点を与えてくれて、とても興味深いですね。大学時代よりも、社会人になってからの方が切実に学びたい。勉強したいという気持ちが強くなりました。そんな時、

熊本大学が強い味方です。

—仕事の上でも大いに役に立っているというわけですね。

浪床 その通りです。今は社会部で様々な問題取材しているのですが、難しいことはばかり。そんな時に、取材をしていく中で同時進行的に専門の先生方に話を聞くことで参考になる点がたくさんあります。これからも大いに活用させていただこうと思っています。

—熊本大学に何か期待することや、注文はありませんか？

浪床 社会人が受講しやすい夜の時間枠の講座をより充実させていただきたいですね。そうすれば、今以上にたくさんの人たちが利用できるようななると思います。まだまだ知らない人も多いようですし、大いにアピールしていただきたいです。私も、その時々取材対象や興味に合わせて、いろいろな講義を聞きたいと思っています。





現在、熊本大学では世界11カ国、17大学との間で交流協定を結び、学生の相互交流を進めています。この交換留学制度で留学した学生2人に、留学先での暮らしぶり、大学の様子などについてうかがいました。

### 交流協定大学への留学を希望

有働幸子さんと高良和則さんは、昨年2月から12月までの10カ月間、オーストラリアのニューカッスル大学、ニュージーランドのマッセー大学にそれぞれ留学しました。いずれも、熊本大学と大学間交流協定を結ぶ大学への留学です。

高校生の頃から海外留学を希望していたという有働さん、「交換留学制度があると知って、熊本大学を志望しました」と、長年の夢を実現させました。3年生の後期には留学が決まり、オーストラリアならではの勉強をしようと、原住民アボリジニ研究の準備も進めてきました。

高良さんは学部を卒業後、大学院へ進学してから、留学を決意しました。「企業の方たちや海外の技術

者と会う機会も増えて、もっと広く海外で専門分野を生かして仕事をしたと感じるようになって、海外への留学を考えようになりました」。それぞれ動機は違いますが、明確な意志を持つての留学でした。

### 強い意志とモチベーションが、 実りある留學生活のコツ

高良さんが留学したニュージーランドのマッセーは、地方の学園都市。自然に囲まれた町です。

「とにかくのんびりして、人間より羊の数が多いうのも納得でした」。羊の肉が苦手な困ったという高良さんも、すぐに慣れて、ニュージーランド人の学生と一緒に部屋を借りて快適な学



#### PROFILE

有働 幸子さん(うどう・さちこ)  
2001年2月～12月、オーストラリアのニューカッスル大学へ留学。現在、文学部文学科4年。



# ～大学間交流協定で、 熊大から海外の大学へ～

熊本大学文学部文学科4年・有働幸子さん(留学先/オーストラリア・ニューカッスル大学)

熊本大学大学院自然科学研究科博士前期課程機械システム専攻2年・高良和則さん(留学先/ニュージーランド・マッセー大学)



#### PROFILE

高良 和則さん(こうら・かずのり)  
2001年2月～12月、ニュージーランドのマッセー大学へ留学。  
現在、自然科学研究科博士前期課程機械システム専攻2年。

生生活を送りました。「7部屋もある一軒家を2人で借りて住みますから、かなり贅沢ですよ。それでも家賃は月に3万円ぐらい。住むところだけでなく食べ物などの物価もとても安いので助かりました」。ルームメイトのニュージーランド人のライフスタイルには、最初はビックリ。「平日は早朝からジョギングして、夜は勉強というマジメ生活。それが週末になるとコロッと変わって、パーティーで大騒ぎ。遊ぶ時は徹底して遊ぶし、勉強も目一杯やる。すごいなあと思いました」。

学生寮で暮らした有働さんも、オーストラリア人のおおらかでフランクな気質に魅了されたと言います。「気候と同じでカラッとしていて、日本人にはない明るさとハッピーな感じがとても魅力的でした。一方で、とてもまじめな面もあって、本当にやりたい仕事が見つからなければ、バイトしてでも探すわ、という学生が多いのには驚きました」。

#### 日本の学生との違いにショック!

高良さんが学んだマッセー大学にも、公費、私費な

ど日本人留学生が多数在籍していました。

他の国の留学生の中で、ひととき日本人の異質さが目立ったと言います。「いつも日本人同士で集まってワイワイやってる印象が強かったですね。それがとてもイヤでした」。自分

は何のために留学したのか。常にそう問いかけるながら、モチベーションを高めていくことが大事だろうと高良さんは言います。「講義中に居眠りしている学生なんて一人もいませんからね。何のために勉強しているのかという、自分の目的意識をみんながしっかり持っています。そういう点は、日本の大学生も見習うべきでしょう」。

有働さんも、精神面ではオーストラリアの学生の方が年上に見えたと言います。「日本では就職活動が大変という話をする、みんなとても不思議そう



に、何で?自分のやりたい仕事を見つければいいじゃない、と言っんです」。すべてにプラス志向で、「コップに半分の水が入っていれば、普通は半分しか入ってないと思うけど、オーストラリアの学生たちは、半分も入ってるじゃない、OKだと言っんです。すべてに前向きで、積極的。とてもいい刺激になりました」。

#### どんどん海外へ留学して、良い点を吸収することが大切

「外国の人たちに対して、見えない壁がなくなつた。外国人への心構えが変わつたという気がします」。高良さんは留学の成果をこう言います。「今まで、どこかにこだわりや抵抗感があったのが、ニュージーランドでいろんな国の人たちと一緒生活したことで、そうした意識や心の壁が取り払われたみたいです」。将来は、専門分野の研究のために、もう一度海外の大学で学びたいと言っ高良さん。留学が高いハードルではなく、選択肢のひとつになつてきました。

有働さんにとつても、オーストラリアでの10カ月間は新しい出会いに満ちていました。「今まで熊本だけが私の世界だったのが、留学したことで世界がぐっと広がった感じがします。彼らのライフスタイルや考え、特に生活を楽しむというオーストラリア人特有のオージー気質はとても新鮮でした」。

チャンスがあれば、一人でも多くの人に海外の大学で学んでほしいという2人。たとえ短い期間であつても、日本では学べないことがたくさんあるはず。レッツ、トライ!あなたも、留学ライフを体験してみませんか?

7/11  
木

熊本大学高齢社会総合研究プロジェクト  
(熊本大学地域連携フォーラム プロジェクトB)  
平成14年度第2回共同研究講演会  
「熊本県下の介護実施  
状況と問題」

18:30~20:30

星子 邦子氏 (NPO法人「いふ」理事長)

●会場/熊本大学楷樹会館 2F 研修室

お問い合わせ先

嵯峨研究室 TEL:096-342-3283  
尾山研究室 TEL:096-373-5478  
田中研究室 TEL:096-373-5479

8/17  
土  
18日

## 青少年のための科学の祭典・熊本大会

この「科学の祭典」では、創造性と熱意あふれる小・中・高・大学の先生方が会場いっぱい、まるでお祭りの出店のように、それぞれユニークで工夫された実験や工作を繰り広げ、科学の楽しさを追求していきます。たくさんの方のご来場をお待ちしております。

グランメッセ  
熊本

入場無料

お問い合わせ先

熊本大学教育学部理科教育 佐藤成哉  
TEL:096-342-2541

8/26  
月  
27日  
火

## 第5回 熊本ライフスキル ワークショップ

●会場/熊本大学大学教育研究センター  
くすの木会館(レセプションルーム)

お問い合わせ先

教育学部 木村正治・松田芳子  
TEL・FAX:096-342-2580(木村)  
TEL・FAX:096-342-2934(松田)

9/19  
木  
20日  
金

## 電気学会 教育研究フロンティア研究会

●会場/くすの木会館

お問い合わせ先

電気エネルギーシステム工学科  
秋山 秀典  
TEL:096-342-3618 FAX:096-342-3630  
E-mail:akiyama@eecs.kumamoto-u.ac.jp

## 第15回薬剤師のための 医療薬科学研修会 平成14年度テーマ 現代医療の中の伝統医薬

### 9/12 伝統医薬品とCAM

19:00~21:00 鳥居塚和生 (昭和大薬学部助教授)

### 9/19 伝統薬の現代製品化 ー葛花カプセル

19:00~21:00 野原 稔弘 (熊本大学薬学部教授)

### 9/26 漢方薬の服薬指導 ースキルアップ

19:00~21:00 岡野 善郎 (徳島文理大学薬学部教授)

### 10/3 痛みの漢方治療最前線

19:00~21:00 趙 基恩 (ハルビン医科大学名誉教授)  
(日赤健診センター客員指導医)

9/4  
水

## 第6回遺伝子実験 施設セミナー

「再生医学の現状と展望」

15:00~17:00

岡野 栄之  
(慶應義塾大学 医学部教授 生理学教室)

西川 伸一  
(京都大学 医学部教授 分子遺伝学教室)

●会場/遺伝子実験施設 6F 講義室

お問い合わせ・申込先

熊本大学遺伝子実験施設事務室  
TEL:096-373-6501  
FAX:096-373-6502  
E-mail:www@gtc.gtca.kumamoto-u.ac.jp  
http://gtc.gtca.kumamoto-u.ac.jp

9/23  
月  
25日  
水

## 平成14年度 資源・素材関係学協会 合同秋季大会

●会場/熊本大学工学部

お問い合わせ先

環境システム工学科  
佐藤 晃  
TEL・FAX:096-342-3694  
E-mail:asato@alpha.msre.kumamoto-u.ac.jp

●会場/熊本大学薬学部 第1講義室

お問い合わせ先

熊本大学薬学部卒業後教育部会  
担当:宮田 健  
TEL:096-371-4180 FAX:096-362-7795  
E-mail:tmiyata@gpo.kumamoto-u.ac.jp

9/20  
金  
21日  
土

## 第3回 熊本エイズセミナー

●会場/阿蘇プリンスホテル

お問い合わせ先

熊本大学エイズ学研究センター病態制御分野  
TEL:096-373-6536  
FAX:096-373-6537  
http://www.caids.kumamoto-u.ac.jp

7月中旬~10月

## 入試情報

お問い合わせ先

学生部入試課  
TEL:096-342-2146

### ■大学院入試日程■

選 抜 区 分	願書受付期間	試験日
文学研究科(修士/社会人特別選抜含む)第1期 秋季日程	14/9/2月~9/6金	9/26木・27金
教育学研究科(修士)	14/8/1木~8/7水	9/3火
法学研究科(修士/社会人・外国人留学生特別選抜含む)第1期	14/8/1木~8/7水	9/6金・7土
医学研究科(修士) 秋季日程	14/7/29月~8/2金	8/26月・27火
医学研究科(博士/社会人特別選抜含む) 秋季日程	14/8/5月~8/9金	9/2月・3火
薬学研究科(博士前期/社会人特別選抜含む)	14/7/25木~7/31水	8/20火
薬学研究科(博士前期/10月入学/外国人留学生・社会人特別選抜)	14/7/25木~7/31水	8/20火
薬学研究科(博士後期/10月入学/外国人留学生・社会人特別選抜)	14/7/25木~7/31水	8/20火
社会文化科学研究科(博士/社会人・外国人留学生特別選抜を含む) 秋季日程	14/9/24火~9/27金	10/19土
自然科学研究科(博士前期/社会人特別選抜含む)	14/7/25木~7/31水	8/29木・30金
自然科学研究科(博士後期/社会人特別選抜含む)	14/7/25木~7/31水	8/21木・22木
自然科学研究科(博士後期/10月入学/社会人・外国人留学生・帰国子女特別選抜)	14/7/25木~7/31水	8/21木・22木

### ■編入学・専攻科・別科入学試験日程■

選 抜 区 分	願書受付期間	試験日
文学部(3年次編入学)	14/10/7月~10/11金	11/9土
法学部(3年次編入学)	14/10/7月~10/11金	11/9土
工学部(3年次編入学/一般選抜)	14/7/25木~7/31水	8/23金

## 熊本大学「知のフロンティア講座」第12回

7/20  
土

## 司法制度の行方 ー法と社会ー

14:00~15:30

吉田 勇 (熊本大学法学部長)

お問い合わせ・申込先

熊本大学総務部総務課生涯学習係  
TEL:096-342-3121 FAX:096-342-3110  
E-mail:sos-syogai@jimu.kumamoto-u.ac.jp

## 生涯学習教育研究センターより

## 熊本大学公開講座

お問い合わせ先

熊本大学総務部総務課生涯学習係  
TEL 096-342-3121 FAX 096-342-3110  
E-mail sos-syogai@jimu.kumamoto-u.ac.jp

講座名	内 容	開講日	開講時間	受付期間	実施会場	募集人員 対 象 者	受講料
クスリと情報は使 いよう	薬に対して不安を感じることはありませんか?信頼できる薬の情報を上手に利用すれば、薬の長所と短所もよくわかります。	7月13日(土) 8月24日(土) 9月21日(土)	15:00 ~16:30	4月1日(月) ~7月12日(金)	薬学部 情報処理室	20名 市民一般	4,800円
ハーンと漱石	熊本におけるハーンと漱石の理解を深めるために、二人の生い立ちと時代背景を考えながら作品の背後にあるものを読み解いていきます。	8月31日(土) ~9月28日(土) の毎週土曜日	14:00 ~16:00	7月22日(月) ~8月23日(金)	教育学部 228教室	20名 市民一般 学生	5,800円
映画こそ今の人間 社会	現代の人間と社会をテーマとしている作品を通して、そのいろいろな形を学んでいきます。	9月14日(土) ~11月16日(土) の毎週土曜日	15:00 ~16:40	8月19日(月) ~9月6日(金)	くまもと県民 交流館パレア	25名 市民一般・学 生	6,800円
熊本の先覚者ード イツに魅せられた 人々	明治期に活躍した熊本出身の先覚者のうちドイツとの関わりが深かった5人を取り上げ、生涯と業績をエピソードを交えて興味深くお話しします。	10月5日(土) ~11月2日(土) の毎週土曜日	13:30 ~15:10	9月2日(月) ~9月27日(金)	生涯学習教育 研究センター	20名 市民一般	5,800円
家庭科の授業づく り研究会	家庭科の授業開発、教材研究を行います。	毎月第4土曜日	14:00 ~17:00	随時	教育学部 371教室	20名 小・中・高の 家庭科の教師	無料
ものづくりサークル	現場の先生たちが集まり、学校現場ですぐに役立つ、面白くて、楽しめる道具等を開発し、作成していきます。	5月13日(月) ~平成15年2月 3日(月)	18:00 ~20:00	随時	教育学部 化学教室	20名 小・中の教師	無料
熊本市化学サークル	現場の先生たちが、経験を生かして、意見交換をしたり、現場ですぐに役立つ教具・教材等を考案し合い、作成していく場です。	5月30日(木) ~平成15年2月 27日(木)	18:00 ~20:00	随時	教育学部 化学教室	20名 小・中・高の 教師	無料
高齢社会総合研究 プロジェクト講演会	高齢社会の問題を、時々のテーマにそって詳しくお話しします。	5月16日(木) ~平成15年1月 23日(木)	18:30 ~20:30	随時	熊本大学 楷樹会館	80名 市民一般	無料
海のいきものを知る ~水草の海の神秘	ウミホタルやハクセンシオマネキなどの観察の他、海岸動物の採集と観察、実習船を使っのプランクトン採集と観察を行います。	7月27日(土)、 7月28日(日)	27日 13:00 ~28日 14:00 (1泊2日)	7月15日(月) ~7月19日(金)	合津マリンス テーション	25名 高校生以上	無料 (食費等 4,000円)
海の生命の神秘を 探る	ウミホタルの観察、海岸動物の採集と観察、実習船を使っのプランクトン採集と観察、ヤドカリ類の殻交換の実験を行います。	8月16日(金) ~8月18日(日)	16日 15:00 ~18日 13:00 (2泊3日)	8月1日(木) ~8月9日(金)	合津マリンス テーション	25名 高校生	無料 (食費等 2,500円)

## はじまっています! 授業開放



4月にスタートした「授業開放」、ご存知ですか。従来の公開講座等に加え、熊大生が日頃受けている授業を社会人も受講できるようになりました。前学期は80の方が受講中です。後学期の申込は8月頃の予定です。あなたも熊大生と一緒に授業を受けてみませんか?

## 受講者の声

西村 文雅さん

授業科目  
哲学概論Ⅰ(火・4)  
比較政治学Ⅰ(水・3)

—参加のきっかけは?

知ること、学ぶことは楽しみです。いろいろなところでポスターを見かけ、資料を送っていただきました。

—実際参加してみようですか?

素晴らしい先生に巡り会え嬉しく思っています。原理・原則から出発している先生に就いて学ぶのは、世界が広がります。自明の中に誤謬を発見でき、明晰にパラダイムの転換が可能になります。先生や学生たちの探究心に満ちた顔、緑の茂るキャンパスの雰囲気は私は大好きなんです。

「今が青春! 知りたい、知りたい、学びたい」

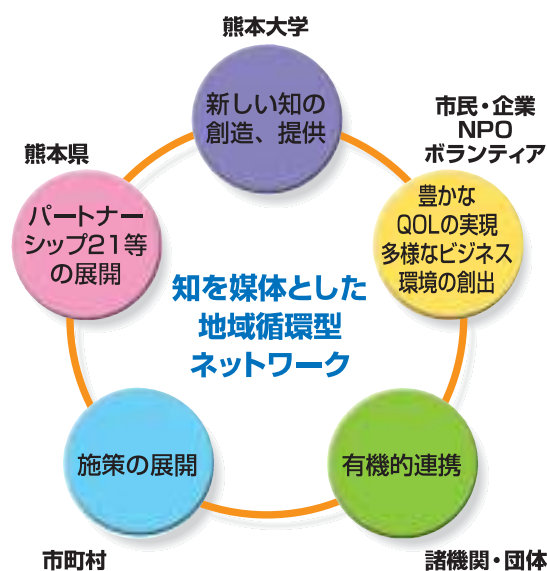


## 熊本大学LINK(Local Initiative Network Kumamoto) 構想が始動！

熊本大学は「教育」「研究」はもとより、「地域貢献」「国際貢献」を大学の理念として掲げていますが、このたび熊本大学の知の資産と、熊本県のニーズとの結びつきを強め、全学をあげて地域貢献の充実を図るために、知を媒体とした地域循環型ネットワーク形成のための「熊本大学LINK (Local Initiative Network Kumamoto) 構想」の取り組みを開始しました。Lは、ローカル(地域)、Iはイニシアチブ(先導)、Nはネットワーク(連携)、Kは熊本及び知(ナレッジ)を意味するものです。

このネットワークは、大学が持つ知的・人的・物的資源を地域との間で循環させ、共に支え合うような相互関係を強化するもので、行政・企業のみならず市民・ボランティア・NPOなどと幅広いネットワークを構築し、豊かな地域社会の実現に寄与していくことをめざします。

このような取り組みは、熊本大学を地域における新たな「社会資本」(公共財)として価値づけるといふ、これからの新しい地方における国立大学のモデルを先取りするものです。このネットワークによって、課題、ヒト、情報、資金、そして、知が大学と地域の間を循環し、熊本大学はその中で得られた個別問題の研究を通して、普遍的な知の探求のみならず、具体的な解決策を模索し、地域や世界に対して貢献します。



**地域課題解決**

- ・地域政策
- ・自治体経営
- ・医療保健システム
- ・地域づくり

**教育(人材養成)**

21世紀型シチズン・シップの育成

- ・学校教育
- ・生涯学習
- ・地域文化
- ・大学コンソーシアム

**産業振興**

- ・工業振興・自治体経営
- ・農林水産業振興
- ・技術開発・研究
- ・グリーン・ツーリズム

**環境**

- ・環境保全(水保・阿蘇)
- ・環境政策
- ・環境学習
- ・公害問題の総合的研究

### 教育学部と熊本市が連携 不登校児童の相談相手に熊大生

教育学部と附属教育実践総合センターは、熊本市と連携し、不登校の児童・生徒の相談相手に大学生を派遣する「ユア・フレンド事業」に取り組みます。この試みは、大人より年齢の近い大学生なら、心を開いて話相手になりやすいのではないかとということから実現しました。現在熊本市には、不登校の小・中学生が600人以上いるとの報告もあります。すでに研修会に参加した約90名の教育学部生が登録しています。



研修会には、予想以上に学生たちが多く集まり、レポート作成にも積極的にチャレンジしています。将来、教師を目指す学生にとっても貴重な体験になるはずです。

### 熊本TLO第1号成果は工学部・平山研究室

熊本大学工学部の平山忠一教授らの共同研究が、この6月、経済産業省の「大学発事業創出実用化研究開発事業」の新規採択を受けました。チッソ水俣研究所および産業技術総合研究所と進める共同研究で、昨年8月から始動した熊本TLO(技術移転機関)事業の第一号成果となりました。



「熊本大学は、優れた研究者が多くいます。今回を皮切りに、産学連携や地域貢献がさらに活発になるといいですね」と平山教授。

研究テーマは「高分子微粒子吸着剤を用いたエンドトキシン(LPS)・核酸(DNA)の選択的除去剤の開発」。有害物質を選択除去し、有用物質のみを残す吸着剤の研究開発で、3年後の実用化を目指します。実用化されれば、医薬環境、環境保全への応用も見込まれます。

## 編 集 後 記

■何回か出席した編集部で、自分の能力とは懸け離れた分野で、何をしたら貢献できるのか悩んでいるのが実状です。しかし、せっかくの機会なので、私なりの課題をもって取り組みたいと思っています。一つはセンスの問題。写真、デザインの配置、色合い等すべて理科系で言う正解がありません。何を頼りに議論をしたらよいのか。編集部ではそのセンスの戦いです。もう一つはコスト意識。30年間も民間企業にいて大学に来た自分としては、給料に見合った仕事をしているか、入居した新しい研究棟の建設コストに見合う成果を出せるか、等。この広報誌についても、コスト対効果をどう考えたらよいのか。・・・これらの課題はともかく、この号では工学部に関する先生の大きな記事が2件掲載されています。一つは有明海、もう一つは三田先生の野鳥の話。前者は、政治的に捉えられやすい課題を大学らしい観点でまとめています。後者は、私が推薦して記事してもらったもので、三田先生にはご迷惑だったかもしれませんが、人柄がよくあらわれているさわやかな内容だと思います。今後、この部会で少しはセンスを磨いていきたいと思っています。

(編集委員：大野恭秀)

### 編集委員

教育学部	助教授・塚本光夫
医学部	教授・西 勝英
工学部	教授・大野恭秀
生涯学習教育 研究センター	助教授・上野真也 (部会長)

事務局／企画広報室  
文 責／編集部



Illustration/ mari KAWATA

熊大通信では、皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

●宛先●

熊本大学総務部企画広報室  
〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号  
TEL: 096-342-3119 FAX: 096-342-3007  
shkdn@jimukumamoto-u.ac.jp

4/1  
熊本日日新聞



新 聞 だ  
見 熊 本 大 学

3/31  
熊本日日新聞

最長2年間 企業で実習  
研究型インターンシップ導入



4/27  
熊本日日新聞



5/16  
熊本日日新聞



6/7  
熊本日日新聞



6/18  
熊本日日新聞





# 平成14年 8月19日 熊本大学 オープン キャンパス



黒髪、本荘・九品寺、大江の各キャンパスでオープンキャンパスを開催します。  
各学部の教育・研究内容が聞けるほか、研究室を開放する学部もあります。  
熊本大学でどのような研究、教育が行われているかを自分の目で確かめて、  
あなたのやりたいことを探してみませんか？

### 文学部

- 時間 13:00～16:00
- 集合時間 12:50までに集合してください。
- 集合場所 文・法学部A1,A2及びB1教室
- 説明内容 学科の紹介、研究室見学及び五高記念館見学 他

### 教育学部

- 時間 10:00～12:00  
13:00～15:00
- 集合時間 午前の部 9:50  
午後の部 12:50
- 説明内容 各学科の説明(研究室公開を含む。)、質疑応答 他

### 法学部

- 時間 10:00～12:00
- 集合時間 9:50までに集合してください。
- 集合場所 文・法学部東側玄関
- 説明内容 模擬講義、在学生による学生生活経験談 他
- ※2年生以上参加。1年生の参加はご遠慮ください。

### 理学部

- 時間 10:00～15:30
- 集合時間 ①1回目 9:50  
②2回目 13:15
- 集合場所 理学部玄関前
- 説明内容 質疑応答、研究室公開 他

### 医学部

- 時間 10:00～12:00
- 受付時間 9:30～9:50
- 受付場所 医学部基礎第一講義室
- 説明内容 医学部概要・教育内容説明、質疑応答 他

### 薬学部

- 時間 13:00～15:30
- 集合時間 12:45までに集合してください。
- 集合場所 薬学部第一講義室
- 説明内容 質疑応答、学部(研究室含む)見学 他

### 工学部

- 時間 9:20～15:10
- 受付時刻 午前の部 9:00～  
午後の部 13:00～
- 受付場所 工学部2号館1階ロビー
- 説明内容 各学科の説明、研究室見学 他

### 医療技術短期大学部

- 時間 10:00～12:00  
13:30～15:30
- 受付時間 午前の部 9:40～10:00  
午後の部 13:10～13:30
- 受付場所 医療短大玄関ロビー
- 説明内容 質疑応答、施設見学 他

九州地区国立大学の進学説明会も熊本大学「大学教育研究センター」内特設会場にて同時開催。  
地元熊本に居ながら、他県の各国立大学の様々な進学情報を得るチャンスです。

お問い合わせ先

熊本大学学生部入試課

TEL.096-342-2146

E mail:nyushi@jim.u.kumamoto-u.ac.jp

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/univ-j.html>



印刷インキは大豆油インキを使用しています。



古紙配合率100%の再生紙を使用しています。